

学部等教員組織編制方針

(文学研究科，理工学研究科（地理学専攻），総合基礎科学研究科)

①専任教員数の遵守，教員の構成について
学部教員配置計画を検討する際に，大学院設置基準を念頭に適切に配置する。学部より高度な専門性を持つ教育組織として，ジェンダー・国籍にとらわれず，優れた研究・教育業績を有し，社会貢献度が高い教員の採用を行う。特定の資格や年齢に偏らず長期的視野と多様性を基礎に，バランスのとれた構成を目指す。
②教育効果に配慮したクラス編成，専任教員の授業負担への配慮について
教育効果をより高めるために，教育段階で必要とされる能力を獲得し，学生主体で活用できるよう研究指導を行い，絶えず改善を図っている。博士後期課程ではリサーチワークにコースワークを適切に組み入れ，専門性の高い教育を行う。 特定の専任教員に過重な負担が生じないように，大学院分科委員会業務や他研究科での兼担業務も勘案し時間割編成を行う。
③教員の適切な役割分担及び責任の所在の明確化について
組織的な教育研究を行うために，大学院専攻主任会において，執行部と有機的に結びついている。専攻主任と連携強化を図ることにより，教育課程や研究科の運営体制における専任教員の役割分担と責任の所在を明確にしている。
④教員の資質向上について
研究科の教育研究分野に沿ったタイムリーなテーマで，組織的，多面的なSD・FD研修を実践することにより，教員の積極的なFD活動への参画を促進し，教員の教育研究活動等の自己点検評価を実施し，教員の資質向上を通して教育の質の向上を図る。
⑤その他，学部等として重視するポイントについて